

東日本大震災  
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2021.1.11

Vol.

56

January, 2021

ナウイズ  
毎月11日発行

# NOW IS.

鈴木京香

in 亘理・山元



訪れないと分からない  
想いがありました。

# NOW IS. 対談

Talk Session

## in 互理・山元 WATARI・YAMAMOTO

### ここに あることが伝える 震災当時の様子。 人々の想い。

この日、女優の鈴木京香さんと訪れたのは、2020年9月に一般公開を開始した「震災遺構中浜小学校」。海から400mほどの場所にある2階建ての校舎には、震災当時、2階の天井にまで迫る約10mの津波が押し寄せました。この津波から、子どもたちと地域住民90人の命を守ったのが「屋上に避難する」という決断です。当時中浜小学校の校長を務め、現在は語り部として震災遺構を支える井上剛さんにお話を伺いました。

来て、見て感じることに。遺構をこの地に残す意味。鈴木京香（以下京香）―先ほど井上さんの案内で校舎の中を見学させていただきましたが、本当にきれいな校舎だったんだな、と感じました。階段や天井に今も残っている木材が、あたたかな雰囲気を残していて。井上剛（以下井上）―そうですね。日当たりも良くて、木に包まれながら日向ぼっこできるような学校でした。90人の命を守ってくれた学校です。私たち

Suzuki Kyoka

## 鈴木京香

すずき  
きょうか

PROFILE

1968年生まれ、宮城県出身。仙台の大学在学中に女優デビュー。NHK朝の連続テレビ小説『君の名は』主演をはじめ、数多くの作品に出演。気仙沼市と登米市を舞台にした2021年度のNHK連続テレビ小説『おかえりモネ』では、ヒロインの母を演じる。

にとっては、命の恩人のような存在なんです。京香―当時は校長先生だったんですよね。井上―はい、校長としての初任地で、海のそばの学校は初めてです。私は「海なし県」群馬県出身なので海とは縁遠い人生でした。それなのに1000年に一度の経験をする事になるなんて。京香―地震の時、子どもたちは校舎に残っていたんですか？井上―はい。高学年は教室にいて、低学年は校庭で遊んでいました。揺れが収まり、すぐにテ

レビをつけると「10分後に5、6mの津波が来る」と言っている。最短の指定避難場所までは歩くと20分かかります。これは垂直避難しかない、屋上への避難を決めました。中浜小は以前から高潮の被害を受けることが多く、校舎新築の時に敷地を2m程かさ上げし、その上に2階建ての校舎が建っているの、屋上は10m以上になると計算しました。京香―先ほど井上さんが、屋上に続く狭くて急な階段の前でお話してくださいましたが、とて

も心に残っています。井上―はい。子どもたちや地域の方をこの階段に誘導しながら、「すべての責任は私の両肩にかかっている。次にここを降りるときは、全員の命が助かるときだ」と心に決めました。京香―総合的に考えて、導き出した判断だったんですね。井上―そうですね。でも屋上に上がってからも、心の中では何回も迷いましたよ。3波目の津波が高くて、海のほうを見ると20mくらいの津波が押し寄せてくるんです。あの時は、避難場

所まで走って逃げるべきだったのではないかと葛藤しました。京香―そうですね。私は震災当時、東京にいたので、胸がつぶれるような想いをしながらも、本当のことは分かっています。今日ここに来て、津波到達地点のパネルを見て、ようやく知ることができ、この学校が残っている有難さを身もって感じています。でも、この校舎を残すという結論に至るまで、大変なこともあったのではないですか？井上―いろいろな意見がありま

した。公開までの10年という歳月は、必要な時間だったのだと思います。それに、完成してみて分かったのですが、ここは、地域の方の心の拠り所にもなる。震災の傷がまだまだ癒えていない人も、ここに来て昔の写真や映像を見たりすれば、一緒に懐かしんだりすることができ。学校の周りにたくさんあった家々も、今は農地になっています。地域の最後の心の拠り所としても、震災遺構中浜小学校はここに立つ意味があると思っています。

Inoue Takeshi

## 井上剛

いのうえ  
たけし

PROFILE

1957年生まれ、群馬県出身。大学卒業後、宮城県に教員として採用。山元町立中浜小学校には2010年4月に校長として赴任した。自身の経験を学校教育に活かしてもらいたいと各地で講演しているほか、退職後は語り部として活動を続けている。



当時のことを伝える場であり  
心の拠り所でもあります。



Visit  
亙理・山元  
WATARI・  
YAMAMOTO

# 語り部、マリンスポーツ、 行方不明者捜索。 それぞれの10年のかたち。

亙理町B&G海洋センター艇庫を運営する「海族DMC」の代表太見洋介さんと。

問いかけから始まるガイド。災害を自分ごとと捉える。

「震災遺構中浜小学校」の1階は津波の被害の跡をそのまま残しています。部屋は天井や黒板まで剥がれ、松の木が入り込んだまま。「直後はこの3倍はがれきがありました。自衛隊の人が清掃活動で少し撤去しましたが、それでもこの状態です」と井上さん。京香さんは、言葉少なにかつての教室を眺めます。井上さんは、中庭の窓ガラスを指さし、こう問いかけました。「ここには、天井まですっぽり水が入りました。それなのにガラスは割れていない。なぜでしょうか?」。首をかしげる京香さん。井上さんは続けます。「考えられる答えは、入った水の圧力が一定だったから。でもこれは答えが大事なんじゃない。自分のこととして考えるのが大事なんです。普段の学びにつなげて考えれば、災害は他人事ではない。なぜこんな破壊が起きたんだろう、自分だったらどう避難するかな、と考えてほしい。前を見据えた井上さんの目を覗き込みながら、京香さんはうなずきます。

階段を上がり2階に行くと、展示室があります。そこには、地域のみんでワークシヨップをしてつくった、震災前の山元町を表現したジオラマが。「ここ



3



1「私は、どんな人にも経験してほしくない経験をした。だから語るんだと思います」と井上さん。  
2 校舎に入ったすぐのホール。がれきが残されています。



2

が学校。こだわってつくられているので、細かいでしょう。ほら、ターザンロープなんかもある」と井上さん。京香さんは、「私、学ばなきゃという気持ちで来たんですが、学びだけではありませんね!」とつぶやきます。

「お話を伺っていると、ここで楽しく過ごしている子どもたちの姿が目につかぶようです。そうですね、と井上さん。「この前、見学を終えた子どもたちに、ほら、校庭走っていいよ!と言ってみたんです。子どもたちが校

庭でキャーキャー騒ぎはじめたら、この遺構が、あの頃のように、生き生きし始めたように見えました。ああ、ここは姿を変えても学校なんだな、と思いました。」

「やっぱり足を運んでみるのが大事なんです。見学を終えた京香さんは話します。「屋上で避難していた時の苦しさを肌で感じたのは事実ですが、震災以前、どんな学校だったのかも感じる事ができました。足を運ぶのが怖い気持ちもあるかもしれ

ないけど、遠ざけておくのはもったいない。時には笑いながら井上さんのお話を聞けて、とってもいい時間でした。」

安全に遊んで、海は楽しい!と感じて。次はお隣の亙理町へ。「亙理町B&G海洋センター艇庫」を訪れました。鳥の海でマリンスポーツを楽しめる拠点施設です。「子どもたちに安全なマリンスポーツを提供して、海って楽しいなど感じてもらいたいですね」

ここに注目!  
**NOW IS. EYE'S**   
震災後、2018年5月に再オープン。手ぶらでカヌーやサップなどのマリンスポーツを楽しめます。中でもベットと乗れるカヌーは、SNSで人気に。海が荒れているときは、バイクや自転車で亙理の沿岸部を巡るツアーも可能。

4 亙理町B&G海洋センターのすぐそばにある浮桟橋でカヌーを見ながら。  
5 太見さん自ら冬の海に潜り、水中ドローンを活用した行方不明捜索活動の様子。  
6 島の海でサップを楽しむ家族。歓声が聞こえてきそう。



自らも被災した太見さんは、ボランティアでもうひとつの取組をしています。それが水中ドローンを活用した行方不明者の捜索活動です。「私は30年前、当時小学2年生だった弟を亡くしました。津波でお子さんやご家族を失った方の姿を見ると、

あの時の悲しさが重なるんです。これまで、8組のご家族の依頼を受けて捜索にあたりました。年々、ご遺体や遺品が見つかることは少なくなっています。「それでも捜索することで親御さんの心に寄り添えるかもしれない。悲しんでいる人にそっと手を差し伸べる活動を続けていきたいと思えます」。太見さんは前を見つめています。「10年経っても通

過点に過ぎない。亙理町の復興はハードが整備されるとともに、これからは人やにぎわいをどう呼び戻すかだと思っんです。B&Gが楽しい施設だと認知されるようになれば、人が集まり、周辺地域にもにぎわう。町全体の活気のために、そういう役割を担っていきたいと思っんです。「新しい希望をお持ちなんですね」と京香さん。「これから、もう続く復興の道筋を進むパワーは、こういうところで生まれているんですね」。

長い10年。震災への想いは今でも言葉にできない。

京香さんは、震災からの10年を振り返り、「いろんな気持ちがあった10年でした。長かったな」と話します。「震災当時、宮城にいらなかったことに、私は今も後ろめたさのようなものを感じていました。私を育ててくれたふるさとが大変な時に、何も

できなかったんじゃないかと。あの時からずっと思っています。震災は、今でも私にとって、簡単に語れない大きなことなんです。京香さんは、今、宮城が舞台の連続テレビ小説「おかえりモネ」の撮影を行っている最中ですが、「大変だったことを思い出すシーンもあるかもしれない。でも、ちょっと力がつくような、新しい気持ちも生まれるような、そんなドラマにできたらいいと思っています」。

# 災害大国の、一家に一冊



身近なものを使ったテクニックの一例。



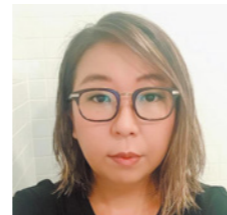
## NOW IS. 防災

# BOSAI FRONT LINE

Vol.20

### PROFILE

つじおか なおみ  
辻岡 直美さん



福岡県出身。「Ray」[mina] (主婦の友社) などのファッション誌編集を経て、マガジンハウスで書籍編集を担当。これまで「Ryoma Takeuchi」や、現在話題沸騰中の松本まりか写真集「MM」を担当。

**check! 01**  
危機管理のノウハウを  
ひとりでも多くの人に

さまざまなテレビ番組でも紹介され、防災本として異例の30万部という大ヒットを記録した『自衛隊防災BOOK』(マガジンハウス・2018年)。2019年には第二弾も発行されるなど、大きな話題となっています。

この本の中で紹介されているのは、危機管理のプロである自衛隊の災害時のノウハウ。仕掛け人である担当編集者の辻岡直美さんにお話を伺いました。「弊社で発行した『君たちはどう生きるか』(吉野源三郎著)という本のPRの担当として関わり、年代問わず読まれる本に触れる機会があったんです。そのときから、全世代に読まれる、役に立つ本を作りたいと思うようになりました。」

企画を考えていた辻岡さんはある日、YouTubeで「自衛隊ライフハックチャンネル」を発見します。「自衛隊という、命に係わる災害が起こらないと関わることのない、日常生活では少し遠い存在の

人たちという印象で。でも、そのチャンネルを見て印象がガラリと変わりました。紹介されているノウハウは目からうろこ。そこで、とにかく身近な防災本を作りたいと、ダメ元で自衛隊に連絡してみたんです。

**check! 02**  
自衛隊完全協力のもと  
生まれた防災本

辻岡さんの思いに賛同した自衛隊の協力を得て、YouTubeにあがっているものだけでなく、新規のハウツーも収録。初版は7,000部、その後2カ月で15万部にまで発行部数を伸ばしました。

この本の制作を通して、辻岡さん自身の防災意識も変わったそう。「ポリ袋やブルーシートなど、自宅に災害時にも役立つものを置くようになり、安全な家具の配置も考えるようになりました。日本は地震だけでなく、豪雨、台風などの災害と常に隣り合わせです。日頃から『今何か起きたら』ということをシミュレーションしながら、万が一のときにはこの本がお役に立てたらうれしいです。」



みやぎ復興情報  
ポータルサイトは  
コチラから!



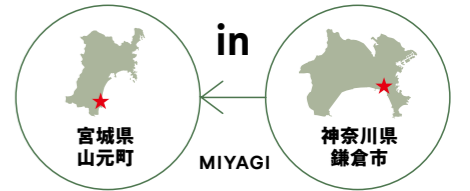
https://www.fukkomiya.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を開設しています! 復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取組などを発信しています。

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,567人 | 行方不明者数 1,218人 | 2020年11月30日現在宮城県危機対策課調べ

活躍する応援職員

# SUPPORT POWER



山元町商工観光交流課 観光交流推進班  
久祢田 紀久 さん  
神奈川県鎌倉市より山元町に派遣



「山元町は『知らなきゃもったいないまち』なんです」と話すのは、2020年4月に鎌倉市から派遣職員として山元町にきた久祢田さんです。山元町の自然や食の豊かさを知り、「このまちが大好きになった」と言います。「震災時は高校生で、鎌倉駅前で募金活動をしました。でも大学が関西で、だんだん震災への関心が薄れてしまっ。そんな時、鎌倉市職員の有志で、一昨年に南三陸町・石巻市・山元町の被災地を巡りました。実際に見聞きすることは、こんなにも感じ方が違うのかと、これまでの自分が恥ずかしくな。復興の手助けをしたいと派遣職員に志願しました。」

山元町では、商工観光交流課に所属。山元町の観光情報発信や山元ブランド推進事業などの業務に携わり、程なくして「やまもととひまわり祭り」の担当に。ヒマワリが咲く場所は、震災で被災した沿岸部の土地を農地として復旧した土地。住宅や道路など、畑ではない土地も混在するため、農作物を育てるための地力増進として、ヒマワリを植えています。新型コロナウイルス

多くの人々に山元町を知ってもらいたい

ス感染症の影響で祭りは中止となりましたが、耕作者の御好意により、ヒマワリ畑を開放。「屋外の広大な場所なので、多くの人々が見に来てくれました。そこで、ヒマワリ畑の近くに住んでいた元住民の方と話す機会があり「誰もいなくなったこの場所が、笑顔になれる場所になってうれし」とおっしゃって。自身が携わったヒマワリで、住民の方の心の復興にも貢献できたのではと、身が引き締まりました。」

山元町の特産品であるホッキ貝をモチーフにしたホッキークんとまちを巡り、SNSなどの情報発信にも力を入れている久祢田さんは「今やホッキークんはよき相棒」と笑顔で話します。「山元町を好きになったからこそ、もっと多くの方に知ってもらいたい。鎌倉市に戻っても、山元町のセールスマンとして頑張っていきたいです。」



今年度のヒマワリ畑。開花した時は本当にうれしく、涙がこぼれそうになりました。この庄巻の景色は忘れられない夏の思い出です。

## INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

### 01 移住オンラインイベント などのお知らせ

イベントでは、担当者とお話する機会のほか、各コンテンツにて、暮らしや仕事などの情報を知ることができます。宮城の今に出会える2日間です!

●日時  
2月13日(土)・14日(日)  
13時~17時(両日)



Instagramのアカウントを開設! アカウントをフォローして、「#ちょうどいい宮城」を付けて投稿しよう!

Instagramアカウント名: choudo\_e\_miyagi

### 02 海づくり大会 「開催記念イベント」実施!

令和3年10月3日(日)開催の「第40回全国豊かな海づくり大会」を記念し、2月1日(月)から5日(金)まで宮城県庁においてイベントを開催します。

1階県民ロビーでの特産品販売会のほか、初日の2月1日(月)には2階講堂でステージイベントを行います。ぜひご来場ください。

イベントの詳細は  
豊かな海づくり大会 食材王国みやぎ大会  
で検索



Thank you from MIYAGI

# 宮城から、ありがとう。

全国各地、世界各国から寄せられた、たくさんの支援。  
宮城の復興は、そんな数多の想いで成し遂げられています。

SUPPORT FILE  
No.8

From 末日聖徒 イエス・キリスト教会 To 亘理町

## 製氷・冷蔵施設

亘理町の荒浜にある宮城県漁業協同組合仙南支所(亘理)では、底びき網漁業や刺網漁業で漁獲されたヒラメやカレイ、サケなど、様々な魚類が水揚げされているほか、海苔養殖も行われています。東日本大震災の津波で、荒浜漁港に係留していた漁船84艘のうち82艘が流され、うち56艘が廃船に。魚市場、製氷・冷蔵施設なども被災しましたが、震災から約1カ月後の4月から応急活動をスタート。6月下旬に水揚げが再開されました。「被災した給油施設をな

んとか復旧させて、船を出航させることができました」と話すのは、同支所の支所長、佐伯さんです。「漁を再開したものの、夏場に向けて氷と冷蔵庫がなく、どうしようかと思っていたら、製氷・冷蔵施設を寄贈いただいたので助かりました。」

製氷・冷蔵施設を寄贈したのは、末日聖徒イエス・キリスト教会です。「7月に施設が完成し、おかげで鮮度の良い魚を市場に供給できました」。その後、風評被害や漁獲規制などの影響を受けましたが、漁獲量は2014年から増加し、2016年には約7億5,000万円と震災前の2.8倍になりました。「温暖化の影響なのか漁獲量は2016年のピーク時の半分ほどに。サケやヒラメの採卵・稚魚の放流など、資源の管理を行いつつ、漁場を永続的に使っていくことが重要です。また、6次産業化にも力を入れています。様々な取組をすることで、亘理の水産業を盛り上げたいですね」と佐伯さんは話してくれました。



1 寄贈された冷蔵施設(左)と製氷施設(右)。2 上部で製氷された氷は自動で砕氷され、最大3.5トンの氷を貯蔵できます。3 砕氷された氷。4 末日聖徒イエス・キリスト教会による寄贈のプレート。5 取材に対応してくれた支所長の佐伯 智弘さん。

NOW IS. Vol. 56

発行: 2021年1月11日 宮城県震災復興本部(事務局: 震災復興推進課)  
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
Tel: 022-211-2408 Fax: 022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県  
Miyagi Prefectural Government